



大好きな霧多布湿原のことをもっと知ってほしい。 20歳でUターンした見習いガイド

太田 愛梨さん 浜中町出身 / 浜中町在住 / Uターン

小さい頃から浜中町の自然が大好きで、生き物を捕まえたり、花を摘んだりして遊んでいました。中学生の頃から霧多布湿原センターで働いてみたいという夢を持ち始めたのですが、高校卒業後は釧路市の企業に勤めました。

ですが、自然が恋しくなったことと「浜中町に湿原があるなんて知らなかった!」と言われたことに衝撃を受け「やっぱり霧多布湿原に携わりたい」と思い、浜中町に戻ってきました。現在は霧多布湿原センターで、サポート業務を担当しています。

地元の小中学生は、学校の授業でよく霧多布湿原センターに行くんです。私も小さい頃から霧多布湿原センターで地元の自然について学んできたので、今度は自分が教える立場に

なれるように勉強していきたいですね。

自分が知っていることを押し付けるだけのガイドではなく、話を聞きに来てくれた方に寄り添えるようなガイドになりたいと思っています。

霧多布湿原は、自然を身近に感じられる場所なんじゃないかなと思います。「花を見に木道を歩いてみようかな」「なにか生き物が見れるかな」と、思いつきで散策できる貴重な場所です。

浜中町には知っている人が多く、町中で声をかけてもらえるのがホッとします。町の人との距離感が近く、とても住みやすい町だなと思っています。

INTERVIEW

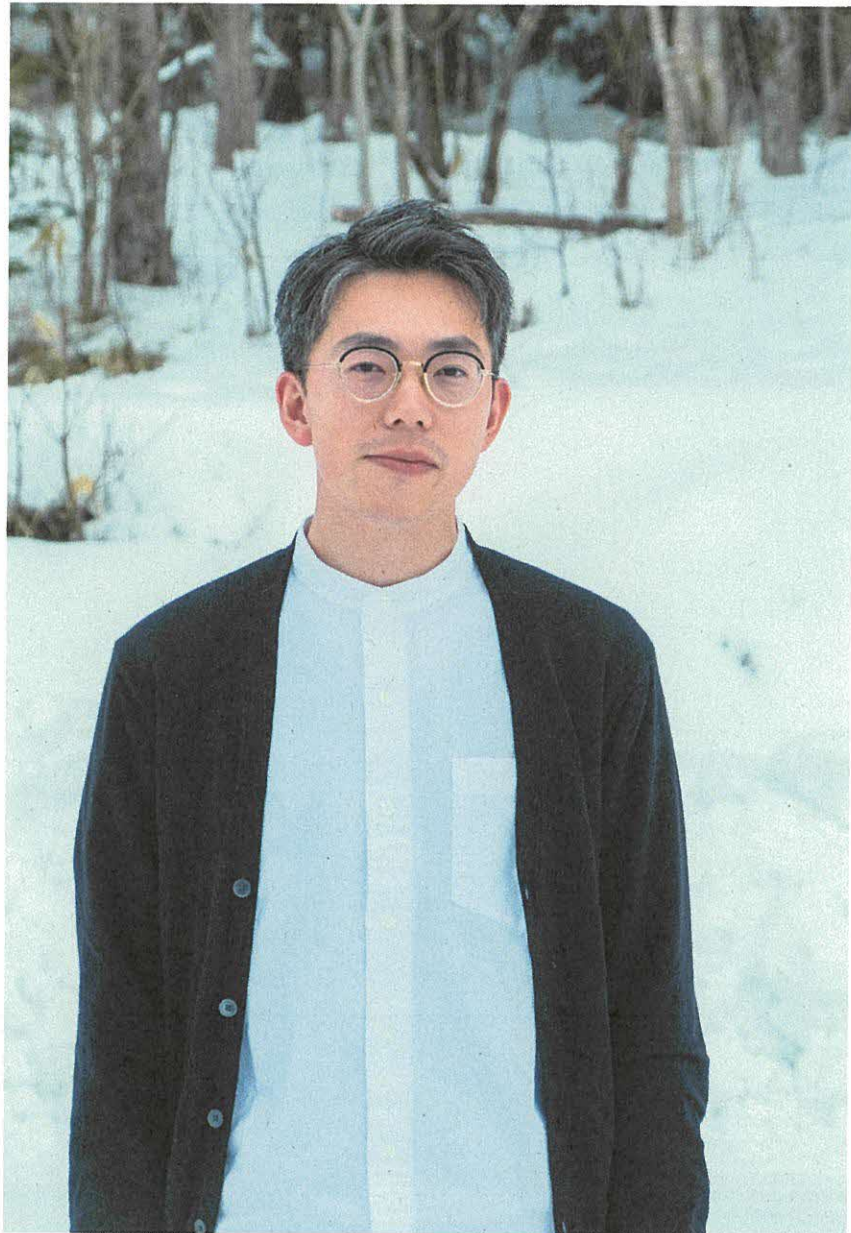
05

SHIBecha
TOWN

家族がきっかけで 決めたUターン

今村 太一さん

標茶町出身 / 標茶町在住 / Uターン



進学で標茶町を離れ、卒業後は飼料関係の仕事をしていました。

あるとき母が病気になってしまい、お世話は釧路市に住んでいる家族に任せっぱなし。忙しくてなかなか帰れないでいたところ、数年前に母が亡くなったのをきっかけに自分の生き方を見つめ直し「自分が大切だと思っている人のために時間やスキルを使いたい」、そう思い標茶町に戻ってきました。

Uターンをしてから、鳥の声や木のざわつく音が身近に聞こえてくることで、自然豊かな標茶町に戻ってきたんだと実感しています。

現在は、主に酪農家さんに向けたコーチングやコンサルティングの仕事をしています。以前飼料関係の仕事をしていたことと、対話によって

相手から何をしたいと思っているのかを引き出すスキルを学んできたことを生かし、酪農家さんと一緒に「本当は何がやりたいのか？」を考えるサポートをしています。

コーチングやコンサルティングの仕事は都市部の方が需要が多いのですが、それでも地元で仕事を始めたのは「この人の力になりたい」と思える人が、標茶町に多いからなんです。標茶町でコーチングの仕事始めて、相手から「自分は今のままで良いと思わせてくれる」と嬉しい言葉もいただけていますね。

自然環境が豊かにあることと、周囲の人との心地いい関係性があることで、地元での生活は充実しています。



INTERVIEW

06

TESHIKAGA
TOWN

25歳、元アナウンサー。弟子屈町での挑戦

川上 椋輔さん 宮城県出身 / 弟子屈町在住 / 1ターン

アナウンサーとして北海道各地を取材するうち、現場で手を動かす実践者としての生き方に興味を持ちました。

とあるきっかけで、弟子屈町が地域おこし協力隊として町の情報発信業務を行う「シティプロモーション活動支援員」を募集していると知り、現在は弟子屈町の地域おこし協力隊として活動しています。

主な仕事としては、弟子屈町が運営するYouTubeチャンネル「弟子屈町公式チャンネル」の中で「弟子屈町公式ニュース」などの企画・運営・情報発信業務を担当しています。弟子屈町長との対談から地元の商店街の抽選イベントの配信まで、町内外の方に喜んでいただけるような企画づくりをおこなっています。

最近ですと、地元の人にもよく知らない弟子屈町のことを一緒に学んでいけるような「弟子屈学」というコーナーも始めました。弟子屈町の方からは「情報発信を担ってくれる人を待ってたんだよ!」と温かく歓迎していただきました。

弟子屈町には地域の魅力を生かした、たくさんの「事業」があります。僕も地元の方々と一緒に、弟子屈町の自然の中でのテントサウナ事業や、人が集まるきっかけを作るためのシェアハウスを企画中です。

地域の魅力を武器に、地元の方々と協働して作り上げていく事業がたくさんあるということは、それだけ関わり方が豊富にあるということなのではないでしょうか。



INTERVIEW

07

TSURUI
VILLAGE

フルリモート勤務を機に地方暮らし。 鶴居村での生活を楽しむ夫婦

板 宏哉さん 釧路市出身 / 鶴居村在住 / Jターン
板 久美子さん 秋田県出身 / 鶴居村在住 / Iターン

宏哉さん(以下、宏) 僕は東京のIT企業で勤めていて、最近フルリモート勤務になりました。それをきっかけに、妻の久美子と一緒に僕の実家がある鶴居村に移り住むことにしたんです。

久美子さん(以下、久) 私は秋田県出身なので北海道には縁もゆかりもなかったのですが、何度も足を運ぶうちにこの村の面白さや居心地の良さを実感して、住みたいと思うようになりました。

(宏) 僕は個人でもWEBサイト制作などをしていのですが、近所のお店の人と話すうちに困りごとの相談を受けて、鶴居村でもお仕事をさせてもらえるようになりました。鶴居村に移住してきて、顔が見える規模感で仕事をす

ることの重要性を感じています。

現在、自宅は鶴居村の空き家をリノベーション中なんです。憧れの薪ストーブも設置しました。よく東京の友人には、僕たちの生活を羨ましがられるので「住んでみなよ!」と誘っています(笑)。都会の家賃に比べればこちらの空き家は安いし「住まなくても、拠点があるだけで気軽に鶴居村に来れるよ」と声をかけています。

(久) 「なにかやってみたいな」と、うずうずしている人にも来てほしいです。村のことを知らなくても、一度来てみれば面白いことや人に出会えると思います!



INTERVIEW

08

SHIRANUKA
TOWN

農業をイチから勉強。 サラリーマンだった西村さんが白糠町に来たわけ

西村 純一さん 茨城県出身 / 白糠町在住 / 1ターン

ずっと農家になることに憧れていて、東京で社会人をしながら移住フェアや就農体験に参加していました。

あるとき出会った白糠町の役場の方がとても面白くて、移住を決心。2020年から白糠町の地域おこし協力隊として働いています。

地域おこし協力隊1年目の現在は、農家研修をしています。夏は野菜農家さん、冬は酪農家さんで勉強させてもらっています。

2年目から少しずつ自分で作物を作ろうと思っていて、4年目に町内で独立できるように準備中です。将来的には、北海道に来てから興味を持ったハスカップを自分で育て、商品開発を試みたいと思っています。

移住してから半年が経ちましたが、白糠町は親切な人たちばかりです。お世話になっている農家さんや酪農家さんから野菜や卵、お魚をいただくこともあり、食には困りません(笑)。これから独立するのに必要なことを丁寧に教えてもらっていて、多くの方に支えられています。

白糠町は新規で就農しようとしている方に、とても手厚い支援をしてくれます。子育て支援も充実しているので、家族で越されてくる方も多いですね。

農業に興味がある人や、子育ての場所について考えたいと思っている家族に来てほしいなと思っています。